



トステム株式会社

# リビング建材 ウッディーライン 玄関収納〈ウォールキャビネット〉 取付け説明書

●この説明書は必ず施工される方にお渡しください。なお施工後は施主様にお渡しください。

## ■施工される方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

**警告** …取付けを誤った場合に、使用者が中程度の障害、軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

**注意** …取付けを誤った場合に、使用者が中程度の障害、軽傷を負う危険及び物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

### 警告

●キャビネットが落下してけがをするおそれがありますので、下記事項を厳守してください。

- ・指定の位置に、厚さ24mm×60mm以上の硬木の棧木を設置してください。
- ・棧木には、虫食い・くされ等のない物を使用してください。
- ・棧木は必ず柱・間柱に釘などで固定してください。ベタ張りの場合は、厚さ18mm以上の合板を使用してください。（厚さ12mmの合板では吊下げ強度が足りません。）
- ・必ず指定の躯体取付けねじφ3.8×65を指定の本数使用してください。
- ・必ず棧木の中央又は厚さ18mm以上の合板に固定してください。

### 注意

- 組立ての際は、接合部に付属の接着剤を充てんしてください。充てんされていないと接合部が外れて、キャビネットの落下の原因となります。
- 扉の吊込みの際は、扉の丁番カップをキャビネットの丁番座に「カチャッ」と音がするまではめ込んでください。扉の脱落の原因となります。
- アルミ扉の場合、丁番固定ねじの締め忘れや緩みなどは扉脱落の原因となります。丁番の止めねじが必ず締まっていることを確認してください。

## ■施工上のお願い

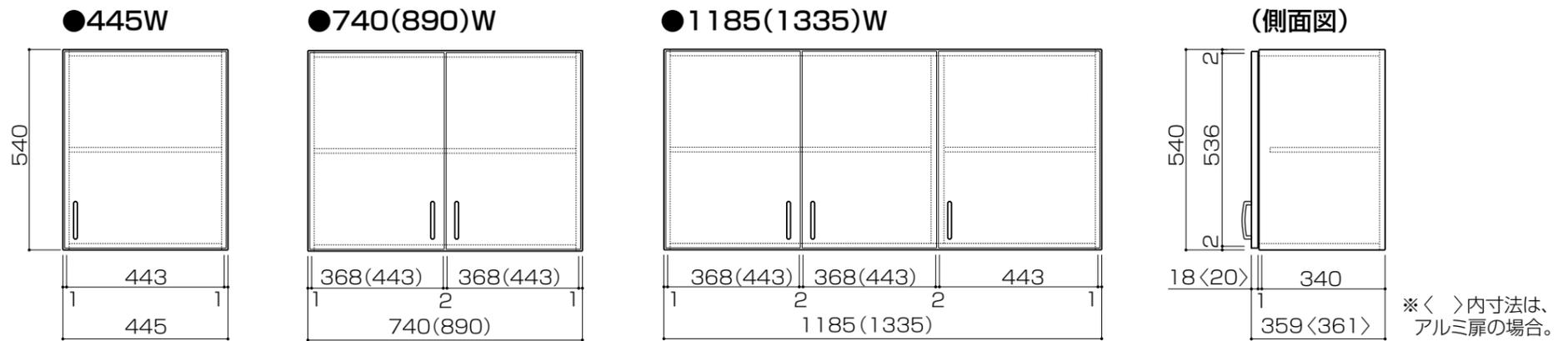
- 壁面(躯体)に固定する際は、水準器・下げ振り等で水平・垂直を調整してください。キャビネットのねじれにより、本体の開閉に支障がでるおそれがあります。
- 養生シートをかぶせる場合は、粘着テープ等を化粧面に張らないでください。はがす際に、化粧シートが損傷するおそれがあります。
- プラスドライバーの先はNo.2のものを使用してください。ねじ頭をつぶすおそれがあります。
- 本製品のねじ締め付け時には、クラッチ付きのドライバーを使用してください。締め付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や垂下がり・ゆがみなどの原因となります。
- 発熱燈付近には取付けないでください。熱により、部品が変形するおそれがあります。

## ■部材部品一覧表

		部材名	数 量			
			445W	740W(890W)	1185W(1335W)	
部 材	部 材	①側板	2	2	2	
		②中仕切	-	-	1	
		③天板・地 板	2	2	2	
		④背 板	1	1	1	
		⑤棚板/W413	1	-	1	
		棚板/W708	-	1	1	
		棚板/W858	-	(1)	(1)	
	部 品	棚ダボ		4	4	8
		キャビネット連結 中仕切固定ねじ φ3.5×27 (黒)		8	8	13
		躯体取付けねじ φ3.8×65		4	4	8
部 品	接着剤		1	1	1	
	アーチ型把手セット (把手/トラス小ねじ M4×25)		1	2	3	
	丁番座		2	4	6	
	丁番カップ		2	4	6	
扉 部 材	部 材	扉/左吊り元 扉/右吊り元	2枚入り/1梱包	-	1	1
	部 品	丁番セット (丁番/皿小ねじ M3.5×12)		-	4	4
扉 部 材	部 材	扉/左右兼用	1枚入り/1梱包	1	-	1
	部 品	丁番セット (丁番/皿小ねじ M3.5×12)		2	-	2

※扉梱包の部品セットは、アルミ扉のみ同梱しています。

## ■寸法図



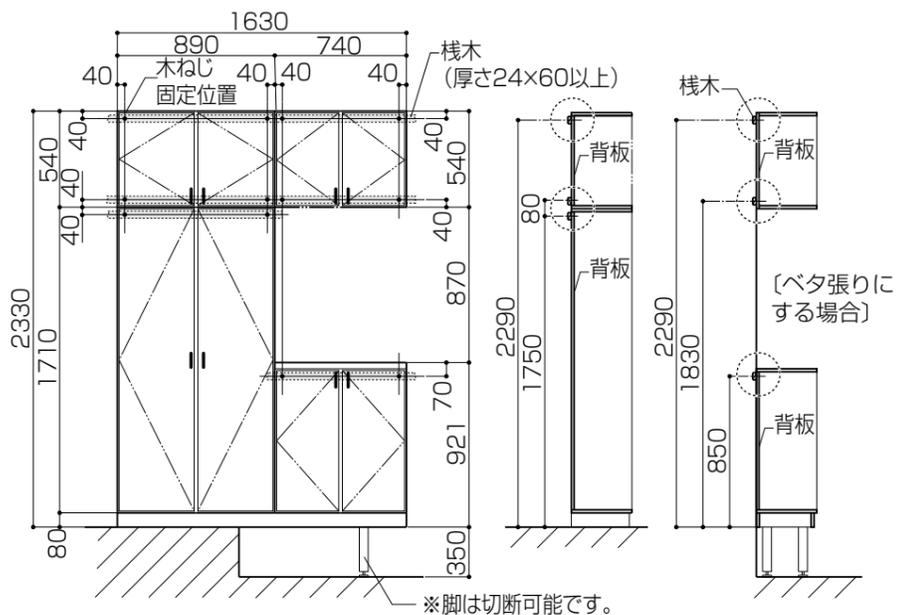
## ■寸法図

- 左右勝手は、組立て後に天地を逆にするにより選択できます。
- 扉の吊元は施工時に変わります。(ただし、アルミ扉の吊元は変わりません。)
- 扉は両開き用扉(左右吊元/各1枚)と、左右兼用扉(把手穴のあいていない扉/1枚)があります。左右兼用扉の把手穴は貫通していませんが、裏面から上下2カ所に道穴が加工してあります。左右勝手を確認の上、把手穴を貫通して組立てます。詳細は、「**■**扉の取付け方」をご覧ください。(アルミ扉の把手取付け穴は加工済みです。)

## ■据付け前の準備

### 1 棧木の設置位置確認

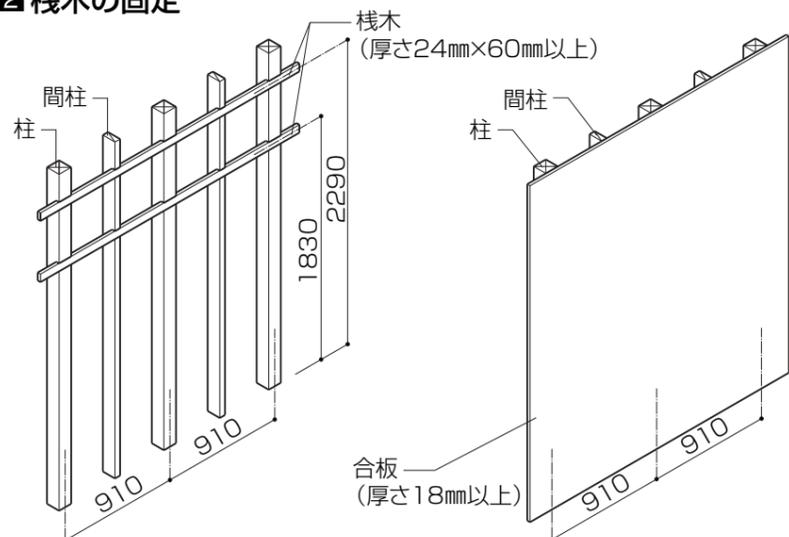
- 据付け場所と上がり框の位置及び収納セットの左右勝手を確認し、棧木を設置します。



### ▲ 注意

- 指定の位置に、厚さ24mm×60mm以上の硬木の棧木を設置してください。
- 棧木には、虫食い・くされなどのない物を使用してください。

### 2 棧木の固定



### ▲ 注意

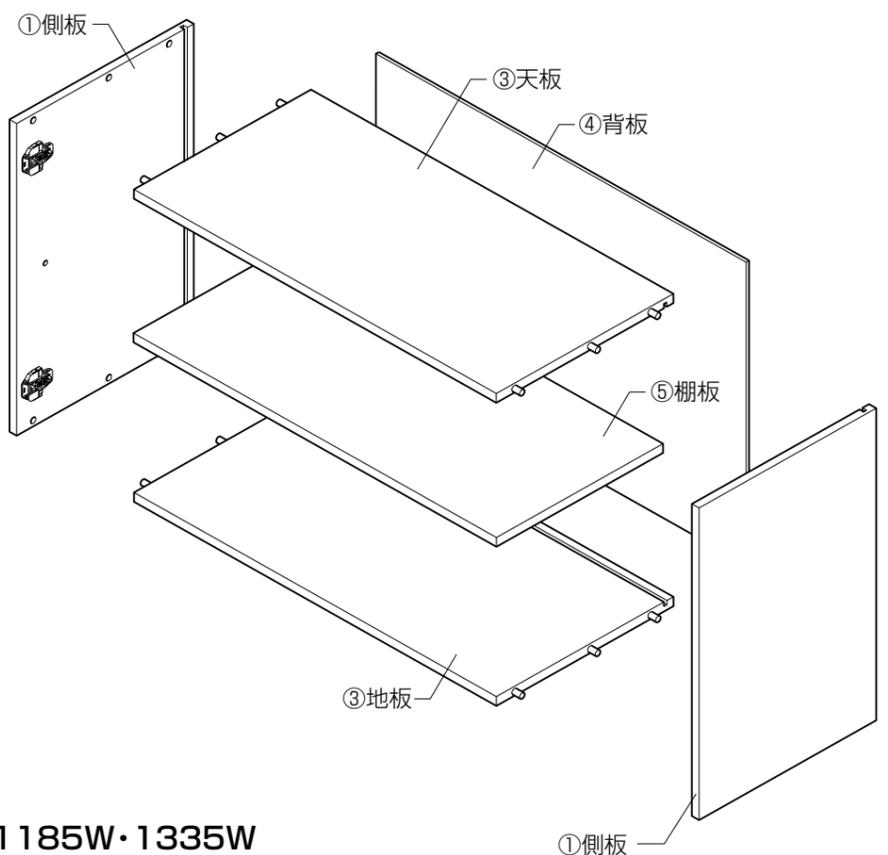
- 棧木は必ず柱・間柱に釘などで固定してください。

### ▲ 注意

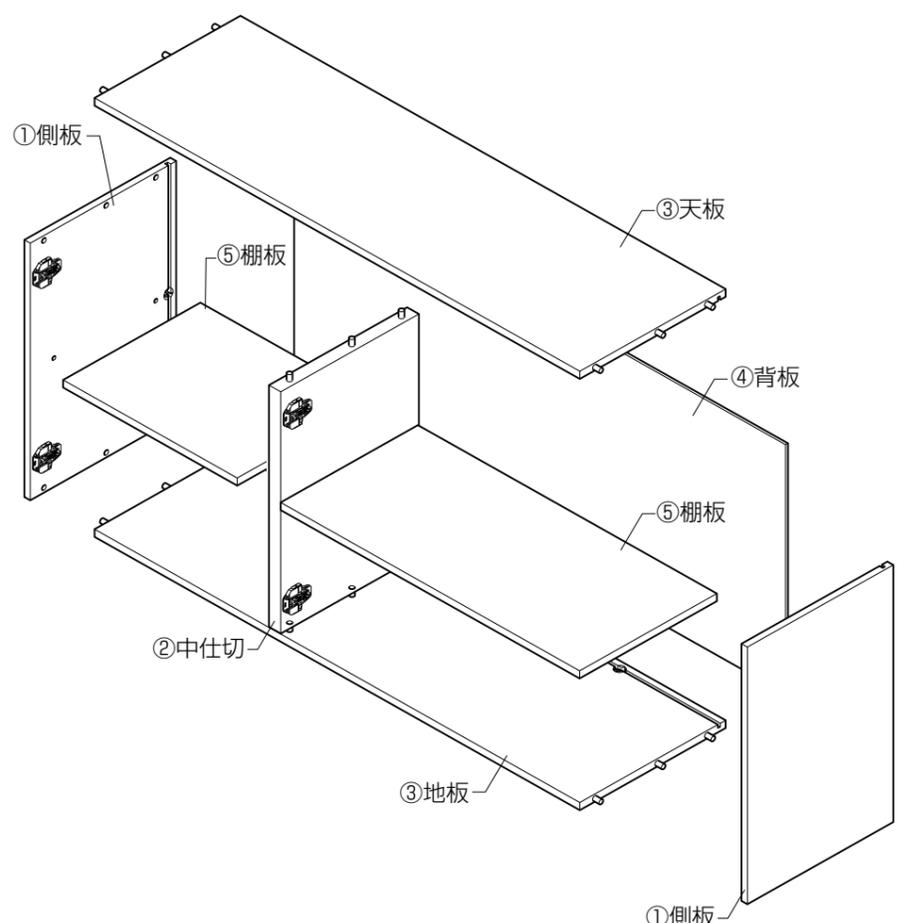
- ベタ張りの場合は、厚さ18mm以上の合板を使用してください。(厚さ12mmの合板では吊下げ強度が足りません。)

## ■各部名称

### ●445W・740W・890W



### ●1185W・1335W



## ■組立て順序

※左右勝手は、組立て後に天地を逆にすることにより選択できます。

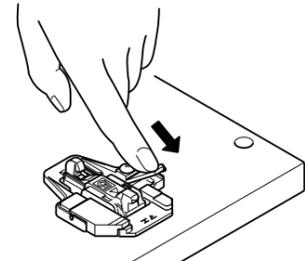
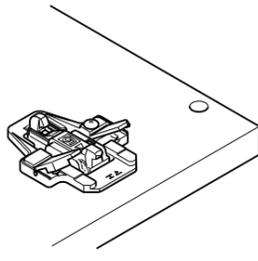
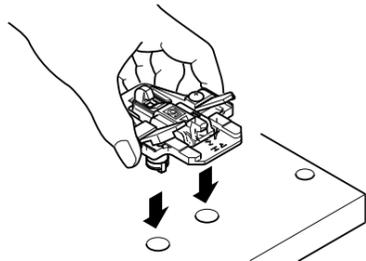
※部材はキャビネット内側がグレー、外側が木目です。

※本組立ては1185W・1335Wの組立てを示し、445W・740W・890Wには中仕切は付きません。

①側板・中仕切に丁番座を取付けます。

丁番座を側板(中仕切)の加工穴に差込みます。

黒レバーをおろして丁番座を固定します。

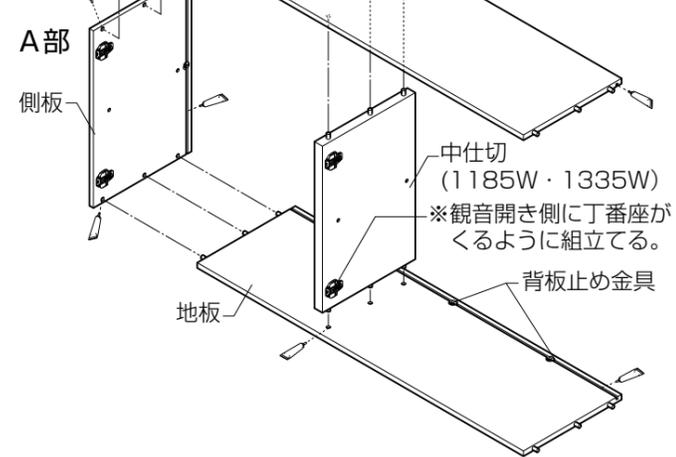
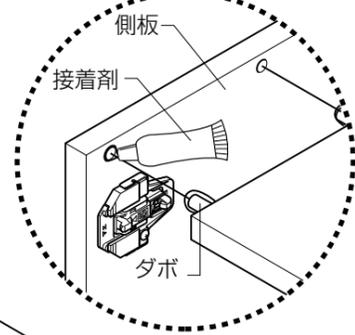


※445Wの側板には、片側しか丁番座取付け用の下穴はあいてません。キャビネットの天地を逆にして左右の吊元を決定してください。

②観音開き側に丁番を向け、中仕切及を天板・地板にはめ込みます。

③片側の側板に天板・地板をはめ込みます。

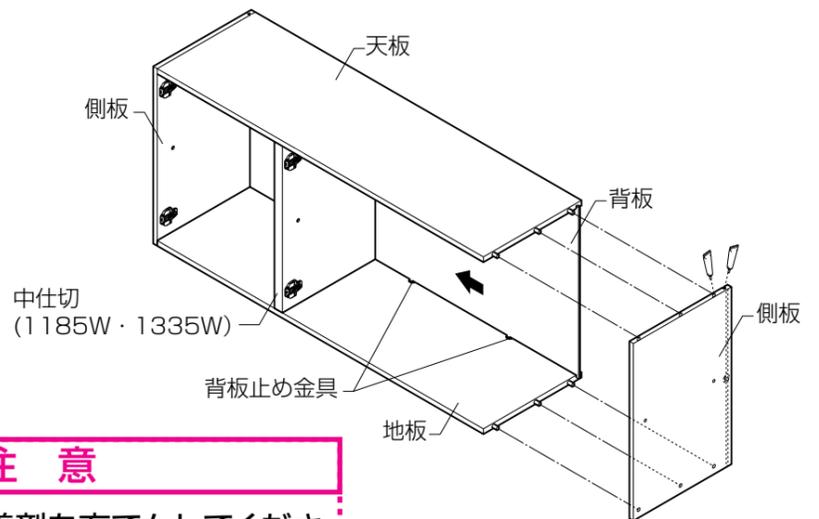
### ■A部詳細図



④背板を差込み、背板止め金具を締めます。

⑤もう一方の側板をはめ込みます。

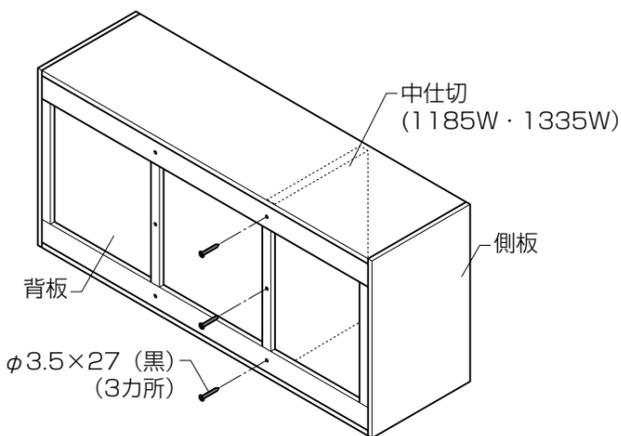
⑥キャビネットの垂直を確認した後、残りの背板止め金具を絞めます。



### ▲注意

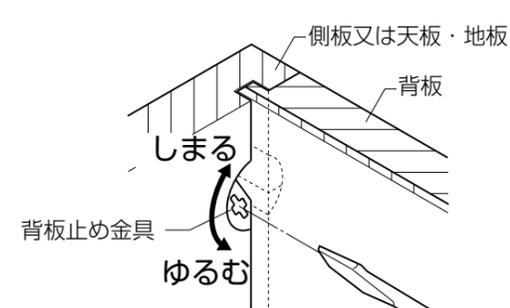
●接合部には必ず接着剤を充てんしてください。キャビネットの強度がでず、キャビネット部材の落下及び、中に入れている物の落下の原因となります。

⑦背板側から中仕切をねじ止めします。



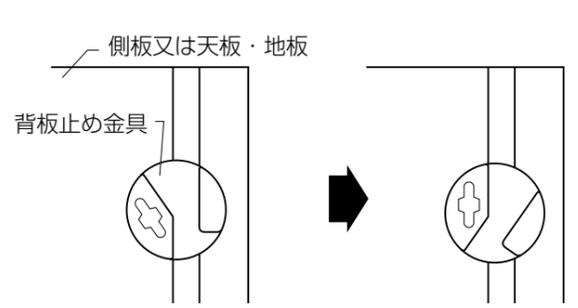
### ■背板止め金具の締め方

※マイナスドライバーで、右回りに締付けます。



### 【組立て前】

※この状態で背板を組み込んでください。

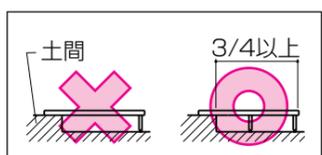


### 【組立て時】

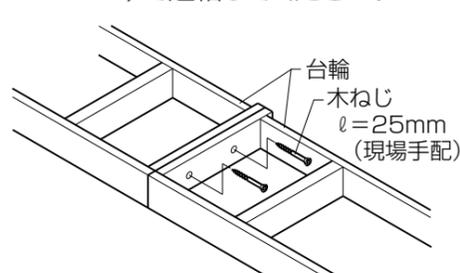
## ■取付け手順

### 1 台輪の設置

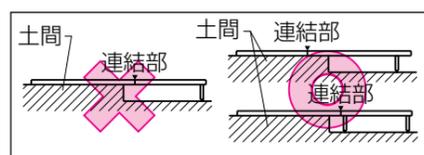
●据付け場所に台輪を置きます。  
 ※台輪を土間に直置きする場合は、水切りのため、アジャスターで10mm以上浮かせてください。  
 ※1335以上の台輪を使用し、土間に2/3以上かかる場合は、追加脚セット(2本入り)(別売品)を使用し、足を4本設置してください。



※台輪を2台以上並べる場合は、木ねじ(ℓ=25mm)で連結してください。

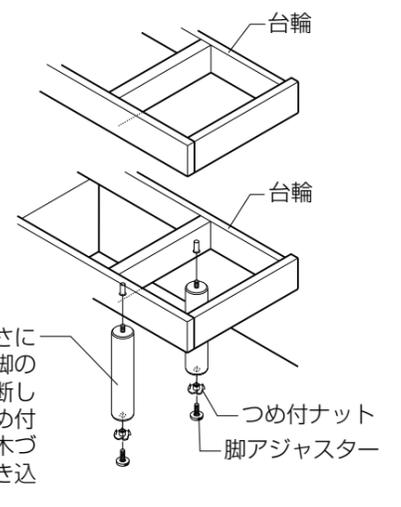


※連結部は、土間にかからないようにしてください。やむを得ない場合は、脚を4本使用し、市販のボルト・ナットでガタツキがないよう、台輪を連結してください。



※台輪の脚の切断可能範囲は、最大100mmです。

※アジャスターの調整範囲は10mm~25mmです。

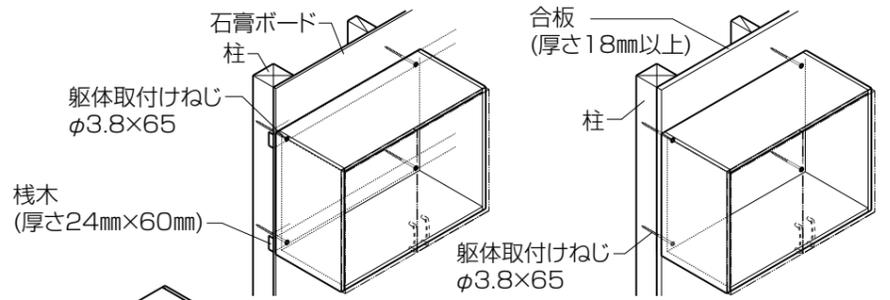


## ② 壁面への固定

- 水準器・下げ振りでキャビネットの水平・垂直を調整しながら固定します。
- ※固定後、キャビネットをゆすってガタツキのないことを確認してください。

### ▲ 警告

- 必ず指定の躯体取付けねじφ3.8×65を指定の本数使用してください。
- 必ず浅木の中央又は厚さ18mm以上の合板に固定してください。

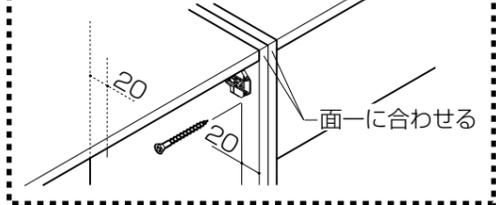


## ③ 台輪への固定

### 【キャビネット+キャビネット左右連結】

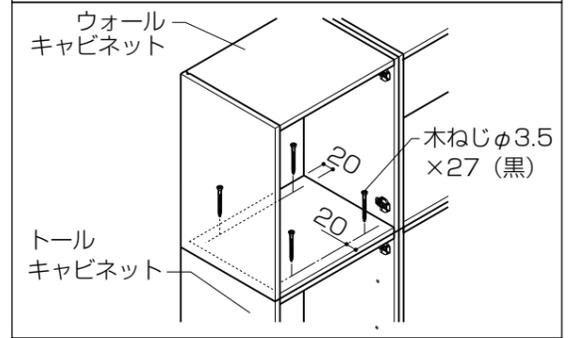
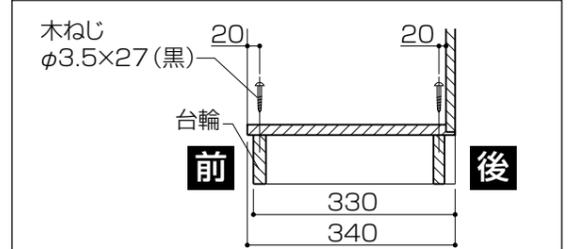
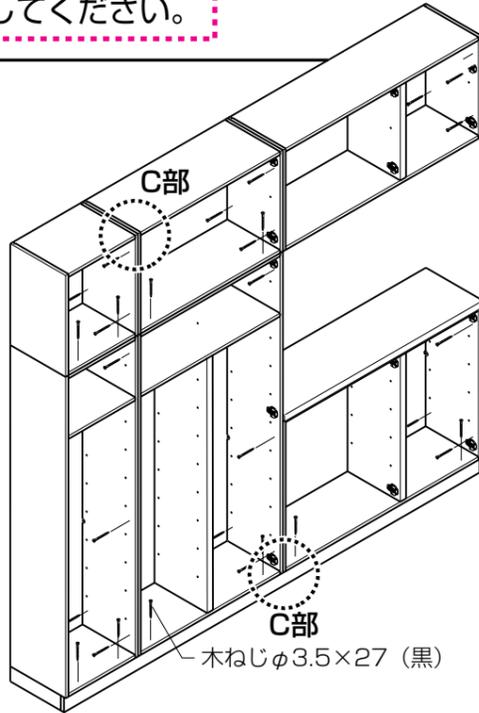
- キャビネットの側板全面を面一に合わせ、付属の木ねじφ3.5×27(黒)で連結します。

#### ■ C部詳細図



### 【台輪+各キャビネット連結】

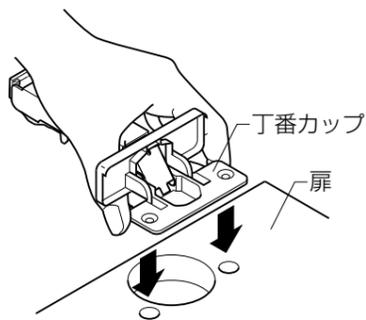
- キャビネットの内側から台輪に木ねじφ3.5×27(黒)で連結します。
- ※この場合、背面を合わせ、左右のチリを均等にしてください。



## ④ 扉の取付け

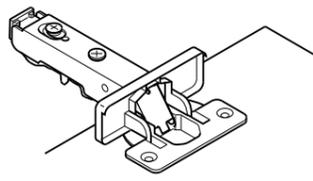
### 【木扉の場合】

#### ① 丁番カップの取付け



丁番カップのカバーを90°に開いて、本体の丁番カップ取付け穴に丁番カップを差込んでください。

※ワンタッチ式ですので、ねじ止めは不要です。



扉と丁番カップにすき間がないことを確認したら「パチッ」というまでカバーを強く押込んでください。

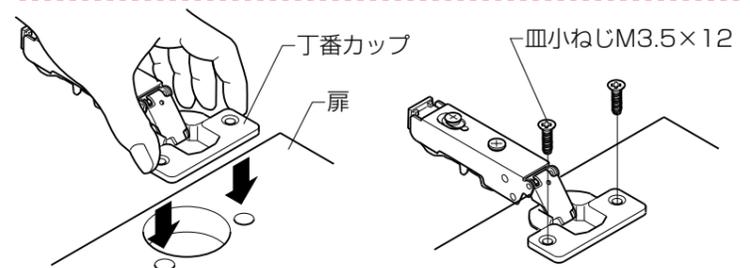


### 【アルミ扉の場合】

- 丁番カップを扉に差込み、皿小ねじM3.5×12で取付けます。

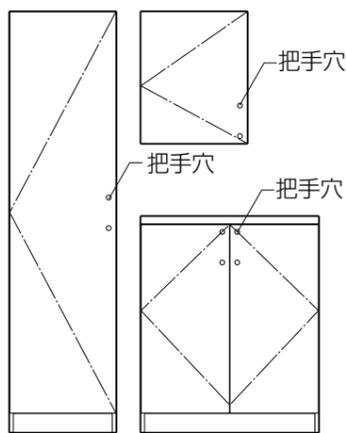
### ▲ 注意

- 丁番固定ねじの締め忘れや緩みなどは扉脱落防止の原因になります。丁番の止めねじが必ず締まっていることを確認してください。



#### ② 扉の左右勝手の確認

- ウォールキャビネットは把手穴が下、ベースキャビネットは把手穴が上になります。
- ツールキャビネットは扉のセンターに把手穴があります。



#### ③ 把手取付け穴加工

- ※445ウォール扉は現場での把手取付け穴加工が必要です。(アルミ扉の場合は、把手取付け穴加工は不要です。)
- ※把手取付け穴加工を開ける時は、必ず当て木を使用してください。

●お願い

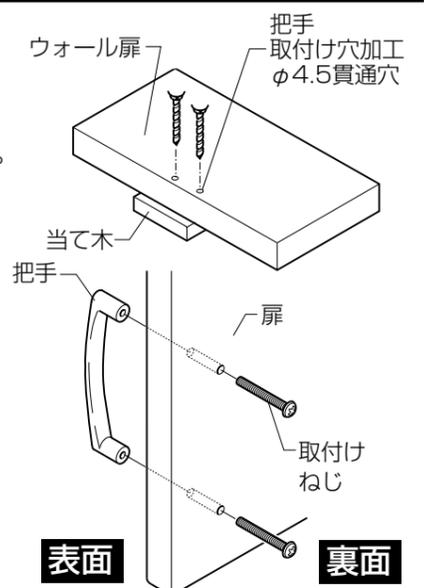
※当て木をしないで穴を開けると、シートがめくれる原因となります。

#### ④ 把手の取付け

- ※把手セットはキャビネットに同梱されています。

### ▲ 注意

- アルミ扉の場合、把手取付けねじは手まわしドライバーで固定してください。強いトルクで締め付けると、扉のへこみの原因となります。

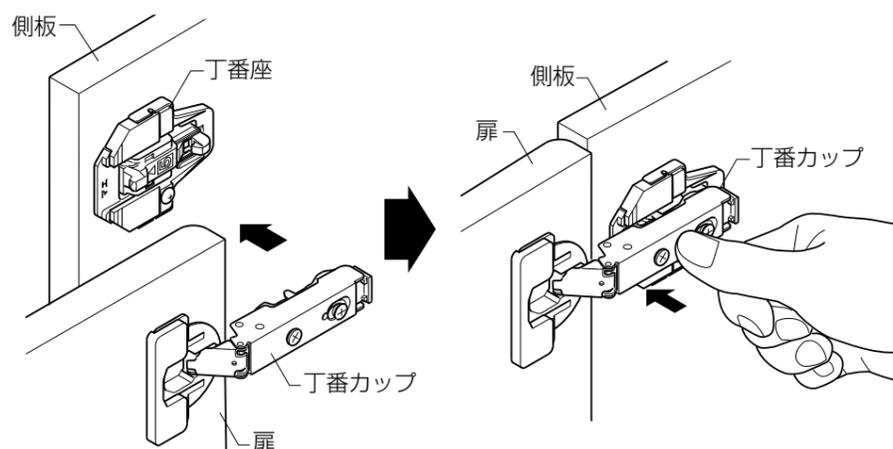


## ⑤-1. 扉の取付け方

### ▲ 注意

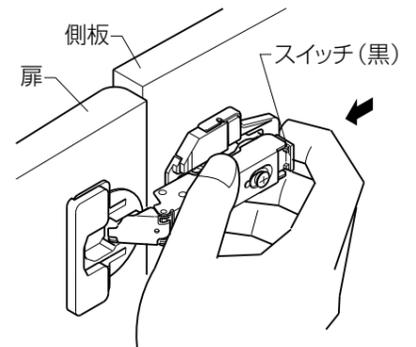
- 扉を本体に取付ける際は、丁番カップが「カチャッ」と音がするまではめ込んでください。扉の脱落の原因となります。

※扉の吊込み後、3回程開閉を行い、丁番カップがきちっと取付いているか必ず確認してください。

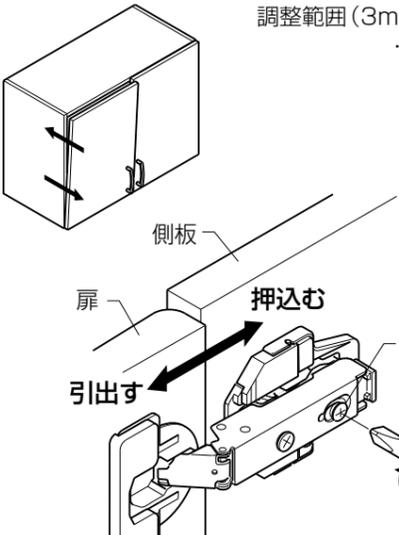
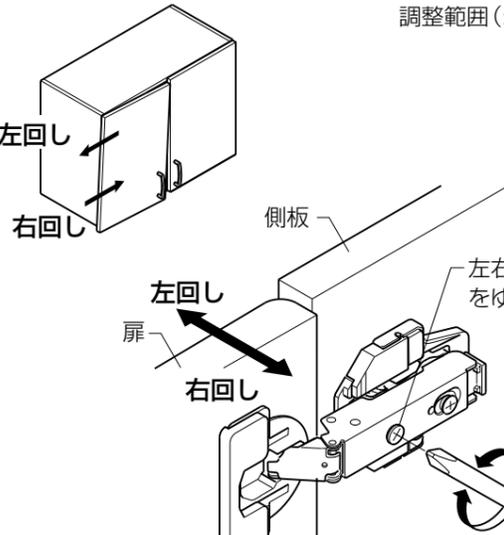
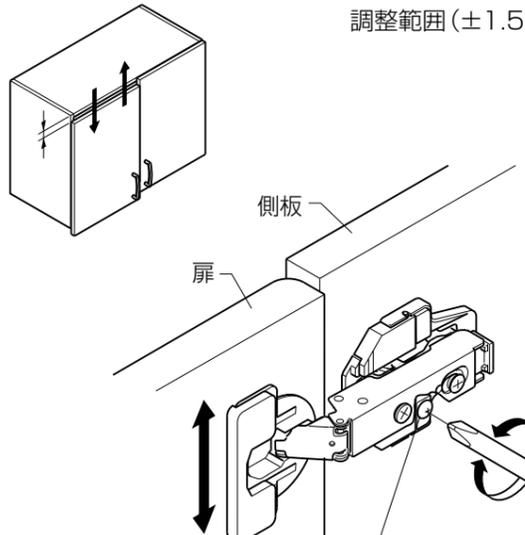


## ⑤-2. 扉の外し方

- 扉を外す際は、丁番カップの黒いスイッチを押してください。



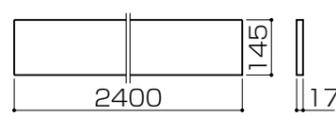
## ■扉の調整

前後調整	左右調整	上下調整
<p>調整範囲(3mm:前方2mm・後方1mm)</p>  <p>※調整後、調整ねじを必ず締め直してください。</p>	<p>調整範囲(±2mm)</p>  <p>※調整範囲を超えてねじ込まないでください。</p>	<p>調整範囲(±1.5mm)</p>  <p>※調整後、調整ねじを必ず締め直してください。</p>

## ■オプション部品の取り付け

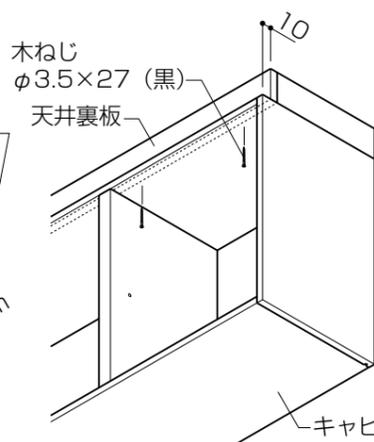
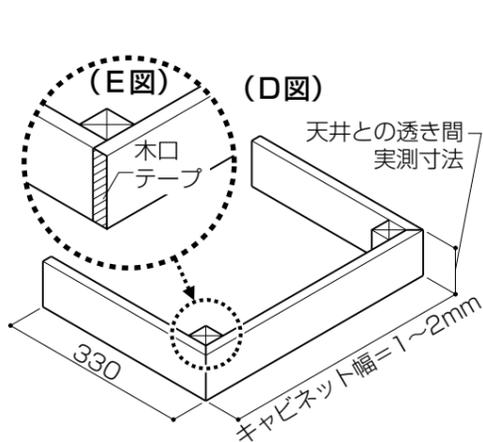
**【天井幕板・開口調整材】**  
 ※扉より先に取付けてください。  
 ※どちらも、現場加工用化粧材を使用します。  
 ※天井幕板と開口調整材を併用する場合は、両者を面一に合わせてください。

●現場加工用化粧板



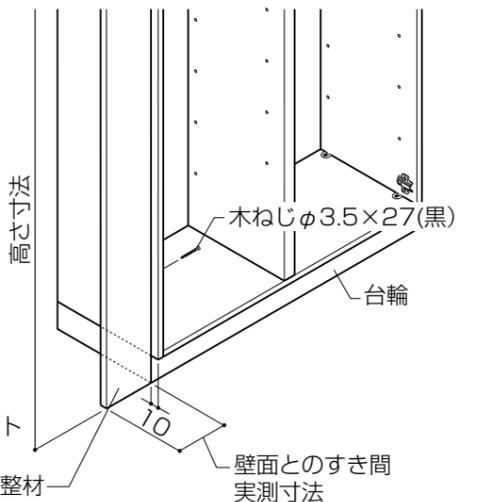
### ■天井幕板

- ①実測寸法に基づいて化粧板を加工し、組立てます。(D図又はE図)
- ②台輪と面一に合わせて取付けます。



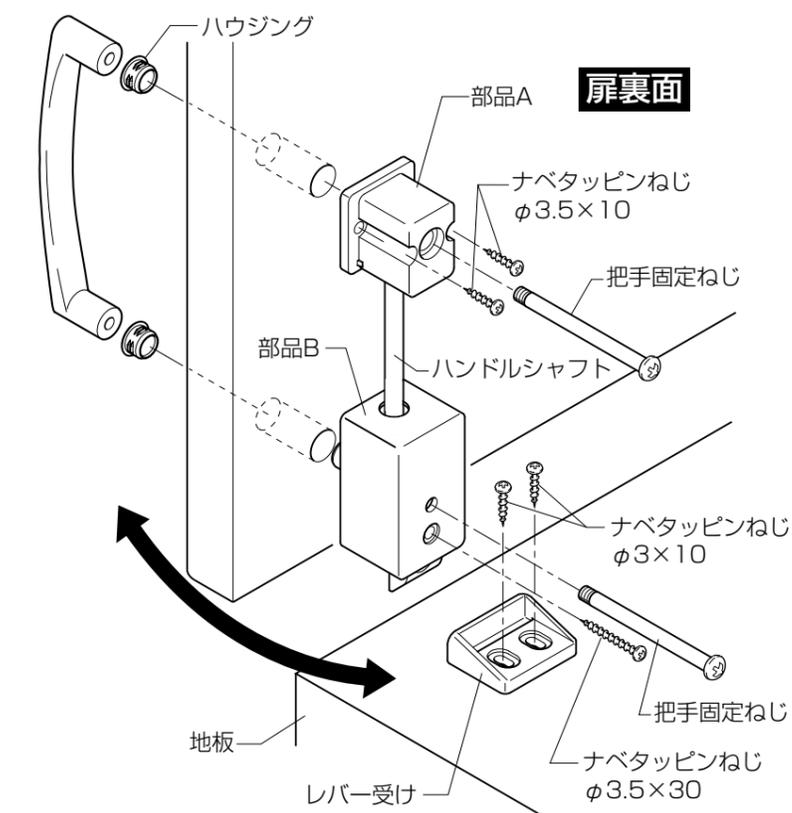
### ■開口調整材

- ①実測寸法に基づいて化粧板を加工します



## ■耐震ロック

※アルミ扉には取付けられません。

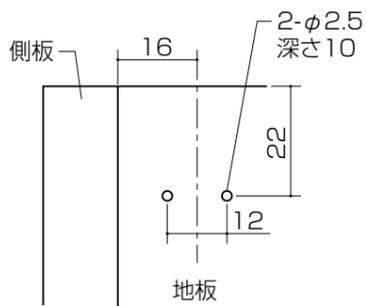


### 取付け方

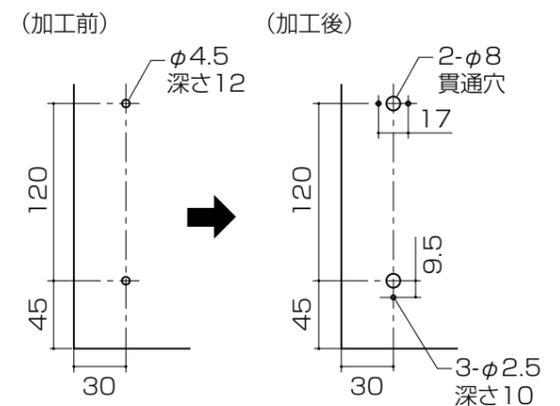
- ①扉に加工済の把手取付け穴をφ8で貫通させます。  
 ※把手取付穴加工の時には、必ず当て木を使用してください。

**お願い**  
 ※当て木をしないうで穴を開けるとシートがめくれる原因となります。

- ②地板にレバー受け取付用の下穴を開けレバー受けを取付けねじ2本(なベタッピンねじφ3×10)で固定します。



- ③扉裏面に下図右のような取付下穴加工を行います。



- ④部品Bを左図の通り、取付けねじ(なベタッピンねじφ3.5×30)を使用し仮止めします。同様に部品Aも取付けねじ(なベタッピンねじφ3.5×10)で仮止めします。その際にハンドルシャフトを部品A・Bに挿入します。
- ⑤扉表面からハウジングを、木又はプラスチックハンマー等で打込みます。次に扉裏面から把手固定ねじを「カチッ」と音がするまで挿入します。
- ⑥取付け後、部品Bラッチ部とレバー受けのかかり、そのクリアランスを調整し部品取付けねじをゆるみがないよう固定してください。

